

感動の場

『雷電風景』

1963年 小川原 脩 画



雷電山の山体が海に落ち込む断崖絶壁で、その形から「弁慶の刀掛け岩」と呼ばれる岩内町の景勝地を小川原脩が描いた作品です。「日本海」といえば荒々しさを想像しますが、さわやかな青色で塗られた空に白い雲が広がり、白波に洗われ見え隠れする黒い岩にも穏やかな海の情景が現れています。

この絵を描いた年、雷電地域は国定公園に指定されました。温泉も湧出し、観光地としても開発が進むことになり、海岸沿いの道路も開通して、画面の真ん中あたりに小さく描かれたトンネルの穴が見えます。岩壁に貼り付くように生える木が赤みを帯びて見えるのは、紅葉しているからかもしれません。

多くの「雷電風景」を描いた小川原ですが、この絵のように穏やかな風景画もあれば、険しくそそり立つ岩と山全体を赤く塗り、ダイナミックな構図で風景を切り取った作品もあります。自然が造り出す変化に富んだ雷電は、訪れるたびに違う情景を感じさせてくれる場所だったようです。

文：金澤 逸子（小川原脩記念美術館 学芸スタッフ）

ふるさと探訪

旭ヶ丘総合公園の聖徳太子座像

475回

昨年2021（令和3）年は聖徳太子の1400回忌でした。一見倶知安町に関係の無い事のように思えますが、実は町内にも聖徳太子ゆかりの像があるのをご存じでしょうか。

園内散策路には1923（大正12）年に建立された三十三観音像が並んでいますが、これは本州から開拓のために来道した人々が「西国三十三ヶ所」の巡礼を遠く離れた地で行うために設けたものでした。

聖徳太子の座像はその巡礼道の途中に安置されています。大きさは像高90センチ、蓮華座、台座、礎石を合わせ、地上から頭上まで316センチ。この像の建立年月日は明記されていませんが、旭ヶ丘三十三観音像を造った人々によって建てられたことから、おそらく聖徳太子の1300回忌にあたる1921（大正10）年あたりに建てられたものと考えられています。1300回忌を記念した建立は倶知安町だけでなく、余市町でも聖徳太子像が、喜茂別町や京極町では太子堂が建てられました。聖徳太子は「職業の神」として職人にあがめられていたことから像やお堂が集いの場となり、かつては祭りなどの催しが盛んに行われました。

台座にも大工や建具、鍛冶などを生業とする人々の名前が寄付者として刻まれています。また、上段台座の正面には「ほとけいて 花ふるにはの ありけるに とふき国とは なにおもうらん」との歌も刻まれています。本州から遠く倶知安にやってきた人々の思いを垣間見るようです。



文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員） ▲聖徳太子座像（旭ヶ丘総合公園）

展覧会のお知らせ

■第1展示室

没後20年小川原脩展「私の中の原風景」part2

小川原脩没後20年にあたる今年、改めてその画業についての再評価や研究を重ねてきた成果を交えて、小川原作品の新たな魅力に迫ります。代表作「納屋」「群れ」「巔」を公開中です。

会期：開催中～11月27日(日)

■第2展示室

倶知安高校100周年記念 京極夏彦美術展

魍魎魍魎渦巻く 京極夏彦の世界

倶知安高校卒業生の小説家・京極夏彦の「美術展」です。妖怪をモチーフとしたリトグラフ、掛け軸、貴重な高校時代の作品などが並びます。書斎フォトスポットもあります。どうぞお楽しみください。

会期：開催中～11月27日(日)

★「ようかいハント」ワークシート配布中

★毎週土曜日11時～ ミニギャラリートーク開催

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

大人の手しごと (16)「落ち葉スケッチ」

きれいに色づいた落ち葉や、味わいのある木の実などをスケッチしてお部屋に飾ってみませんか。

日時：11月19日(土)14時～16時 会場：ロビー（無料）

お相手：沼田絵美（学芸員）・金澤逸子（学芸スタッフ）

定員：10名※要予約、高校生以上、親子可

京都道遷 (10)「王城を護った隠れ里」(前半)

三千院を中心とする大原の寺々。壮大な延暦寺を経て緑深い鞍馬の山へと向かいます。

日時：11月26日(土)14時～14時45分

会場：映像ルーム（無料）

お相手：金澤逸子（学芸スタッフ）

■ロビー展示

第15回絵画コンクール「ふるさとを描こう」作品展

絵画コンクールに応募のあった子どもたちの作品、全147点を展示します。

日時：11月3日（木・祝）～27日(日)

会場：ロビー



★たくさんのご来館ありがとうございます



▲ギャラリー・トーク
魍魎魍魎渦巻く 京極夏彦の世界
(10月1日)



▲ミュージアム・コンサート
友の会アフタヌーン JAZZ ライブ
(10月9日)

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円(400円)

高校生 300円(200円)

小中学生 100円(50円)

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円(100円)

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※12日(土)は京極夏彦トークイベントのため美術館のみ12時以降一般観覧できません

※()内は10名以上の団体料金

11月の休館日 毎週火曜日、

美術館：28日(月)～12月9日(金)、

風土館：28日(月) (展示替え)

現代アート

ピカソより普通にラッセンが好き、という方も多いかと思えます。

20世紀半ばから現在までの美術を現代アートと呼びますが、特に絵画では画材や描画方法が多様となり、かなり先鋭的なものも多いです。そんな中、ラッセンは「マリンアート」といわれる、イルカやハワイの海などの風景をモチーフとしつつ、その大変カラフルな色づかいにより、特に版画の販売で人気が高い一方、世界でもっとも著名な近代画家の一人であるピカソは、年代ごとに大きく画風が変わり、難解な抽象画も多く、決して万人受けする画家では無いかと。

先日、札幌でラッセンと新進気鋭な日本の画家二人との合同美術展を観ました。画材、画法はそれぞれ三者三様でしたが、版画販売もされる美術展だからか、どの作品もとてもきらびやか。まさに眼福でありました。..買えませんがね。

館長 福原 秀和

★文化の日(11月3日(木))は
美術館・風土館観覧無料